



収穫のための働き人を 送り出すために

校長 菊山和夫

主イエスは「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」(マタイ九章三七、三八節)と言われました。

現代ほどこの主の思いが強いく心に迫ってくる時代はありません。働き人が少ないのです。まさに危機的状況です。

しかし、今そのこと以上に、私たちの主は収穫を多く与えてくださる収穫の主であり、その主は働き人をも必ず送ってくださいすることを心にためようではありませんか。

私たちの中央聖書神学校は創設56年間、六〇〇人近い働き人



を世に送り出してきました。これは主の恵みであり、みなさま方のお祈りと協力の御陰です。主のみ名を崇めます。

さて、今日、収穫のための働き人を送り出すために、私たちの学校はどのような神学校であるべきかを真剣に祈られます。

一、神の人をつくる「神」学校
ふつう神学校は「しん」学校と読みますが、私はまず「かみ」学校と理解しております。

つまり私たちの学校は単に神学の知識を与えるための「神学」学校ではなく、すっかり自分に死にきつて神のものとなる「神の人」、聖霊に満たされて伝道に専念する「神の器」を育てるための「神」学校でなければなりません。

聖書の中でモーセやエリヤ、パウロやテモテは「神の人」「神の器」と呼ばれました。引き続き私たちの学校から、彼らのような神の人、炎の人が起こされることを祈っています。そのために学校では、献身者のすべてが祈りと断食の中で主の生きた臨在にふれることを最優先課題としています。

二、ペンテコステの「神学」校
「神」学校だからといって、神

学はどうでもよいというわけではありません。知的靈的に混沌とした現代であればこそ、健全な神学が大切です。体験と情熱だけでは伝道は長続きせず、主に喜ばれる教会は形成されません。

健全な神学とは福音的な神学のことであり、聖霊の働きを重視した聖霊の神学、ペンテコステ神学のことであります。この神学をもって、学生が神学することの喜びを体験し、確信をもって伝道できることを願っています。

三、「聖書」を中心にした神学校
中央聖書神学校は「生活と学びの中央に絶えず聖書を置いた神学校」です。聖霊体験と神学は聖書的でなければなりません。この神学校を通して、聖書から抜け出てきたような人物が送り出されることを祈っています。

あなたはフルタイムの伝道者となるように主イエスの召しを受けていませんか。だとしたら、そのことを牧師に打ち明け、祈っていたら、やがて道が開かれ、分校も含めた中央聖書神学校に入学されますように。収穫の主はあなたに大きな計画をお持ちです。

学事往来

11月20日 ATA (アジア神学協議会) 日本総会(於: CBC チャペル)
12月2〜11月9日 冬期派遣
1月12〜19日 イスラエル研修旅行
2月16日 社会問題特別講義
講師 久保田 寛師
3月6日 卒業式
4月3日 CBC入学式
4月6日 関東分校入学式
【運営委員会関係】
11月7日、12月5日、1月23日、2月19日、3月6日、3月27日、4月3日、4月23日、5月28日
【学校理事会関係】
12月18〜19日、3月27日、6月18日

CBC NEWS 7月号
編集スタッフ
北澤成弘 川上基枝
横山唯一 小石雅枝
編集責任者 菊山 和夫
事務局 中央聖書神学校

後援会入会のご案内

13の教会伝道所からスタートした日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団も、いまや二〇余の街々で伝道を展開する教団となりました。聖霊なる神の導きに従った群れに対する祝福の大きさを実感させられます。

中央聖書神学校は、伝道の前線に働き人を送り出すことに、大きく貢献し続けてきました。現在は皆様の教会から捧げられる献金により、必要が賄われております。いま、多くの献身者の起こされる、差し迫った必要があります。献身者を送り出してくださいと同時に、中央聖書神学校のために祈り、お捧げください。わたしたち中央聖書神学校後援会は、なんとかして教会のご協力と一人でも多くの教会員の方々が後援会の会員となつてくださり、その一端を担わせて頂き、共に祝福に与りたいものと考えております。

在 主 後援会会長 多田睦夫

☆後援会入会要請

個人会員 一口 年5千円
法人会員 一口 年1万円

連絡は中央聖書神学校内後援会宛にお願いいたします。

編集後記

今回初めてCBCニュースを制作するにあたり、諸先生方・先輩方のお証や活動記録を拝見し、CBCの歴史を垣間見つつ、献身の思いを新たにできたことが、大きな恵みとなりました。

今号より、CBCニュースは、史上初のフルカラーにて登場です！この誌面が、手にとつて下さる皆様そして、いつもCBCを支えて下さっている皆様への、良き情報提供となり、また、励ましと恵みになりますよう祈ります。

(小石 雅枝)

聖書信仰にたつて福音宣教の使命に 燃える者を訓練・育成する

中央聖書神学校

ATA 認定校 校長 菊山和夫
入学資格: 高卒以上、召命の確信がある者
【オープンキャンパス】2007年9月24日(月・祝)
【早期入学試験】2007年11月6日(火)
本校・関東分校 〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20
TEL 03-3918-4925 / FAX 03-3918-4064
関西分校 〒663-8184 西宮市鳴尾町1-10-7
TEL/FAX 0798-41-4428
<http://www.cbc-j.ac.jp/>

ご献金によるお支えを心より感謝申し上げます。

2006年11月〜2007年4月 献金者

宣教師団 (AGMF)
中央聖書神学校後援会
嘉手納アッセンブリー教会
平野キリスト福音教会
横須賀キリスト教会
江戸川台キリスト教会
東京主栄光教会 (教団外)
関東東北東教会
東海教会

【個人】
北野耕一師、長屋勇師
大坂太郎師、智子師
——ダビデの石献金——
【関東東北東教会】
・狹山キリスト教会
・神召基督教会
・大島キリスト教会

・中央福音教会
・武蔵野キリスト教会
【関東南西教会】
・杉田キリスト教会
・川崎中央福音教会
・大船神召キリスト教会
【東海教会】
・天塚キリスト教会

【関西教会】
・南紀キリスト教会
・鳴尾聖書キリスト教会
【四国教会】
・高知聖書キリスト教会
・中村福音キリスト教会
【九州教会】
・佐伯聖書キリスト教会



主の恵みにより、イスラエル研修旅行に参加することができたことを心から感謝しています。

まず、印象に残ったのは死海です。死海に入ったとき、足の裏に塩のかたまりがあたつてすごく痛かったのですが、浮いた瞬間、なんだかすごく不思議な感じがしました。多くの国の人が訪れていて、みな同じように死海で浮いているのが何だか楽しかったです。

主の恵みにより、イスラエル研修旅行に参加することができたことを心から感謝しています。

まず、印象に残ったのは死海です。死海に入ったとき、足の裏に塩のかたまりがあたつてすごく痛かったのですが、浮いた瞬間、なんだかすごく不思議な感じがしました。多くの国の人が訪れていて、みな同じように死海で浮いているのが何だか楽しかったです。

校生活において様々な不安や、恐れや、迷いをもっていましたが、確かにイエス様はこんなつまらない私でさえも召してくださっているのだという確信が新たに与えられて感謝しています。

今回の旅で一番印象に残ったのがガリラヤ湖でした。ガリラヤ湖を船でめぐりましたが、湖の中心からイエス様の伝道された街を見渡すことができました。そして、その範囲は決して大きいものではないことを教えられました。しかし、ここから世界を変える福音が発信され、この場所からすべてが始まったのだということを思うときに、私も自分が遣わされたところがあると、そこにいて、いのちをかけてイエス様を伝えていきたいと強く思われました。

がら、イエス様が何を考え、どのようにこの道を歩かれ、弟子たちを教え、群衆をいやされたのか、深く考える時間が何度も何度も与えられました。時には悔い改め、時には喜びでみちあふれ、時には祈ることばさえ出なかったこともありました。この経験は確かに私の今までの姿勢を変えるきっかけになりました。

帰国の途につき、飛行機の中で旅行の出来事ひとつひとつに思いを巡らしながら、福音のすばらしさを強く思われました。この福音をゆだねられ、それを語ることで、そのために今この学校にいること、自分というものが何をすべきかを明確に教えられ心から感謝しました。

研修のために骨折ってくださった多くの方の支えの中で行かせていただきました。本当にありがとうございました。

2年 中山百合



2006年度卒業された 井上先生・大坂先生・岩田先生に聞きました!!

今年二〇〇七年の三月、中央聖書神学校を卒業された、井上隆晴先生・大坂大先生・岩田明美先生に、次の質問をしました。

①福音宣教の担い手となり、牧会をしてみて、今どのような心境でおられますか。②遣わされた教会の中で、特にどのようなことに力を入れていますか。③これから、教会の中で、また、先生自身が、新しく挑戦しようとしていることは何ですか。④最近あった嬉しい出来事は何ですか。

井上隆晴先生

(関西福音センター)

A:①実際に、神様の働きにより、人の心が変わられていくのを見る事ができるのがとても嬉しいです。

A:②教会のまわりや、教会の中を綺麗にすることです。

A:③教会の外に出て、社会との交わりを多く持つこと。

A:④(井上先生の)家族3名で日曜礼拝をしたこと。

大坂大先生

(山手町教会)

A:①魂に対する自分の配慮の足りなさに気づかれます。実際には信徒の方に教えられながら過ごしています。

A:②山手町教会のCAの為に、そして、教会音楽に力を入れています。

A:③手話が出来るようになりたいです。

A:④自分の至らなさにへこむことも多くあります。けれど、それが今の自分には大きな恵みだと信じています。

岩田明美先生

(麻生キリスト教会)

A:①神様の為に仕えることができ、幸いです。

A:②日曜全体に力を入れたいです。特に、礼拝を重点に。

A:③色々な楽器を用いて、賛美を思いっきりしたい!

できれば、賛美制作も取り組んでいきたい。

A:④日々、祈りが聞かれていると感じること。

静心

三名の先生方がさらにそれぞれの場所において用いられ、祝福されますよう、どうぞお祈り下さい。

日々思うこと。ほんの少しずつでも神さまに近づきたい。日々考えること。自分とは何者であるのだろうか。寮生活という狭い世界の中、否応なく隣人とくらべてみたり、覗いたりする毎日。ちっぽけな自分、些細なことに左右される醜い「私」に向き合うのが、寮生活。神を知ることとは「自分」を見つめること。神を見上げるときにのみ「自分」を知る。耐え切れず「苦しいんです」と口にした。その時「しっかり苦しみなさい」と言ってくださった先生。「しっかり苦しみなさい」。深く、暖かい愛の鞭。せつかくの苦しみを無駄にしたくない。ほんの少しずつだけれど、このことがわかってきたような気がする。(田村 敬子)

2007年度 新入生を紹介します!

「喜んで仕える者になりたい。」という頃からか、これが私の願いでした。そして、主の赦しの中で、学びの道が開かれました。「私のような者が選んでよい道なのか」という思いが何度も頭をよぎりましたが、「このような者でも、主が用いて下さるなら」と、決心することができました。これはただ主の憐れみによるものです。

これまで、大島キリスト教会、天塚キリスト教会、嘉手納キリスト教会での信仰生活を通して、喜び仕えることの恵みをいただきました。そして、歩みの中に、主がおられ、多くの方々の祈りにより支えられてきました。このことを覚えて、感謝にあふれて主に仕えていきます。



相原 恵子

出身：天塚キリスト教会

入学後1ヶ月、駒込の山よりこれまでの歩みを振り返り、主の導きと恵み、多くの方々の祈りにより、今があることを

感謝しています。

約6年間、ラジオの現場で人と情報に向き合い、劣等感と、情報を追い続ける虚しさに迫りついた私に、主は、ルカ五章五・六節のみことばを与え、「どのような状況をも活かす私に、全てゆだね、従いなさい」と語られました。そして新たな悔い改めと赦しの体験を通して、献身の思いに至らしめてくださいました。導かれたこの場所で、全ての人にとって最高に価値ある情報「福音」を、感動とともに携え伝える者となるため、実りある訓練の時を得たいと願っています。



小石 雅枝

出身：豊橋キリスト教会

「俺は牧師になる!」そう決心して、ボクシングの練習に励んでいました。私が、「ボクサー」と「牧師」の違いも分からなかった幼い頃のエピソードです。しかし、それでもいずれば伝道者になり、主に仕えたいと願っていたこ

とを覚えています。そして、5歳の時に主と出会い、8歳で受洗、10歳で受洗し、献身の召しをはっきりといただきました。あの幼い頃に、召しの確信をもたらしてから現在に至るまで12年。神様のあふれる愛を感じ続け、主のために働きたいと願うその思いは、少しも揺らぐことはありません。今、私はやっとスタートを切りました。これからずっと、主のために生き、神様の愛を語り続ける者でありたいと願っています。



松 契平

出身：和泉神愛キリスト教会



2007年4月3日 入学式

2007年1月12日～19日

イスラエル研修旅行レポート

3年 武石喜光



主の名を賛美します。

イスラエル研修の一日目は、長い時間、飛行機に乗り続けていました。成田空港から夢にまで見ていたフランスのパリに降り立った時の感動は今でも記憶に残っています(もともと、パリが目的地ではありませんでした)。また、パリ空港からイスラエルのテルアビブ空港に着いた時にも、何とも言えない感動を覚えました。

二日目は、オリブ山からユダの荒野を通って死海に行きました。荒野はイメージと全然違っ

ていて、砂漠のようにではなく、岩が多くありました。そして、死海で浮遊体験をしました。興奮するくらい綺麗で素晴らしい場所でした。マサダ(ヘロデ大王によって造られた要塞跡)を見た時も、ヘロデ大王のすごさと力、その時代の人々のことが何となくわかるような気がしました。それから、クムラン(死海写本発見、エッセネ派住居跡)は感動ものでした。

特に、三日目は私にとつては忘れられない体験をしました。ガリラヤ湖上の船で祈っていたら、「イエス様は何よりもこのイスラエルの地を愛しておられた。そして今は、私たちと共にいて下さる」とはっきり確信が与えられました。その時、内側から力強さが来るのを感じ、神様が私たちを本当にイスラエルへ招待して下さいと確信し、心から感謝しまし

た。ヨルダン川のイエス様がバプテスマのヨハネから洗礼を受けられたところに行けたことも感謝でした。

四日目のタボール山の主の姿、容教会、カイザリアの円形劇場、競馬場跡、露天風呂など、あの時代にどうして?という疑問が沸いて来るくらいの広さ、大きさに圧倒されました。

五日目は、自分の足で歩くことが多く、ゆっくり見ることができました。まずはエルサレムのオリブ山を歩き、主泣き給う教会で礼拝をした時に、私はイエス・キリストも泣かれたことを肌で感じました。キリストは人々を本当に心から愛し、その救霊のために泣かれたのだから、私も一人の魂を命にかけて守り導くキリストの僕になりたいと思ったのです。

六日目は、ベテスダの池から聖墳墓教会に至る、ヴィア・ドロロ

ーサ(十字架の道)を歩きました。そこでも、キリストが歩まれたことが事実であることを確信することができました。パレスチナ自治区であるベツレヘムへも無事に入つて、聖誕教会を見学できました。

七日目は、朝からマリア訪問教会(エリサベツとの出会い)、バプテスマのヨハネ教会を見学させていただきました。

この思いがけないイスラエル研修旅行を通して、私は「キリストは今、私の内におられる」ということを実感しています。また、新約聖書を読むと、今まで以上に身近な出来事として思い描くことが出来るようになりました。主が用意してくださった恵みに感謝します。

